



第四回 パーティー



服飾評論家
市田ひろみ

大体、ビュッフェスタイルのパーティーは欠席することになっている。立っているのがしんどいからではない。女優のY・AもM・Aも出席することはあっても、食物を口にすることはないと断っていた。

実は、机の下でさりげなく、あることが出来ないからだ。それは化粧直しだ。

もしかしたら、唇にマヨネーズがついているかもしれない。歯の間に、レタスやゴマがついているかもしれない。

女性達は、もし椅子席ならば机の下でさりげなくチェック出来るし、直しも出来る。

それが、ビュッフェスタイルだと出来ない。片方でバックを持っているし、飲物のグラスも持っているだろう。

だから、ビュッフェスタイルのパーティーは女性の場合、男性の気付かない気づかいがある。

もうひとつ嫌なのは、ビュッフェスタイルのパーティーの場合、前の方がすいていて後ろの方が混雑する。大抵偉い人が前にいると、若者にとって前に行きにくいという雰囲気はわかる。

しかし、主催者が「みなさん前の方へ」というものの、その雰囲気は変らない。

私は、なるべく過疎のテーブルに行つてあげるようにしている。

大抵知事や市長、会長などと久しぶりに会うと、結構話題がひろがったのしいものだ。

ところで、その日も私は、舞台近くの中央のテーブルにいた。三人しかそこにいなかった。

おしゃべりしながら、ふと後ろを見ると、ボーイさんが椅子を持ってこちらへやって来る。

まさか私の所ではないだろうな……？ なんと予感通り私の前に椅子を置いて、

「よろしかったら、御利用下さいませ」と言つて去って行った。

二百人近いお客様の中で、私だけ椅子に座らせてもらうなんて……。

あ——！！
よるこんで良いのか、悲しんで良いのか、

